

企画展から、六ヶ所村で発掘された縄文時代の遺跡から読み取れる、当時の様子や縄文人の思いを時代区分ごとに7つのメッセージとして、ご紹介します。
縄文前期・中期からのメッセージ4です。

メッセージ 4

なぜ円筒土器が作られるようになったのか？



前期後半の土器様式文化圏



早稲田 6 類土器



円筒下層 c 式土器

尖底土器から円筒土器へ

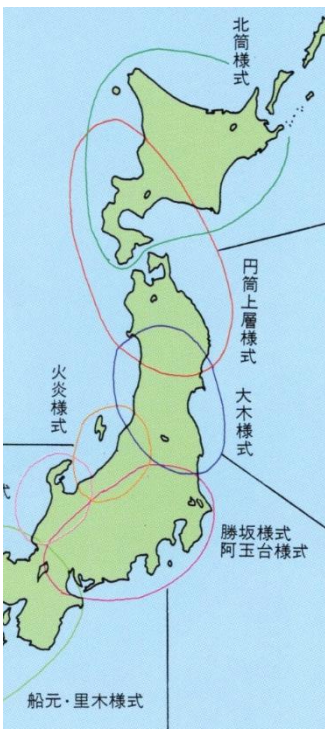


縄文時代前期になるとますます温暖化が進み、多くの入り江や湾が見られるようになります。前期前半は、いろいろな種類の縄文施文の土器が発達し、後半はえんとうかそうしき 円筒下層式土器群と呼ばれる平底の深鉢の円筒土器文化が開花します。

中期の北東北は、落葉広葉樹林帯（温帯）に属し、食料となるドングリやトチの実など堅果類が全国でもっとも豊富な地域で、あわせてサケ・マスなどの寒流系の水産資源も豊富な地域となりました。

調理方法が変わった？

円筒土器は、粘土に植物の繊維を混入し、巻き上げ、全体に文様をつけ、水漏れを防ぐため内面に化粧粘土を貼り研磨していました。食材を長時間煮炊きするような使われ方をしたと考えられます。



中期の土器様式の文化圏



円筒上層 a 式土器



大木様式深鉢土器

環境の違いが、各地域の特色ある文化圏をつくった。